（資料編）

1． 用語について

⑴ 重要種のカテゴリーについて

本戦略における重要種は、下記のとおりです。

① レッドデータブック・レッドリスト（環境省・大分県、以下同）

絶滅危惧I類（CR＋EN）：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧IA類(CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧IB類(EN)：IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧II類(VU)：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧（NT）：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足　（DD）：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群（LP）：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

② その他法令などによる重要種

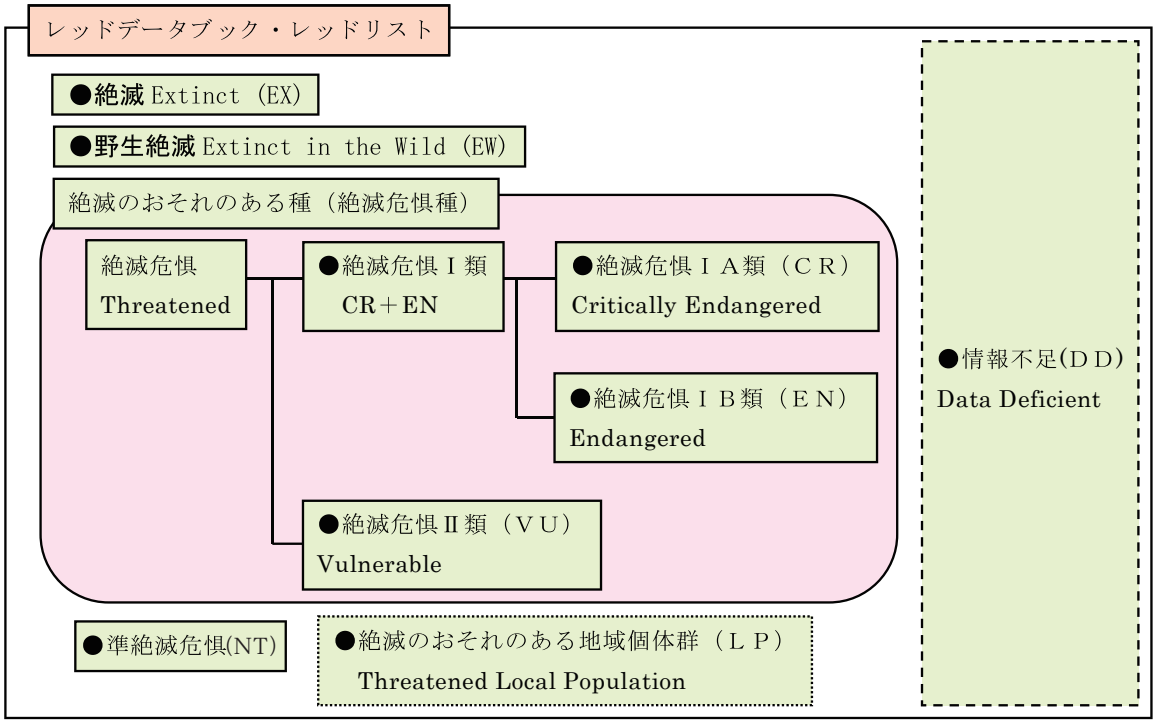
天然記念物：「文化財保護法」指定種

国際希少：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国際希少野生動植物種

国内希少：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種

指定植物：「阿蘇くじゅう国立公園」の特別地域で、自然公園法第20条第３項第11号において、高山植物その他の植物で環境大臣が指定する「指定植物」

指定　　：「大分県希少野生動植物の保護に関する条例」における指定希少野生動植物



⑵　外来種のカテゴリーについて

本戦略における外来種は下記のとおりです。

①　特定外来生物

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2004年，法律第78号）」指定種。海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれのある生物。

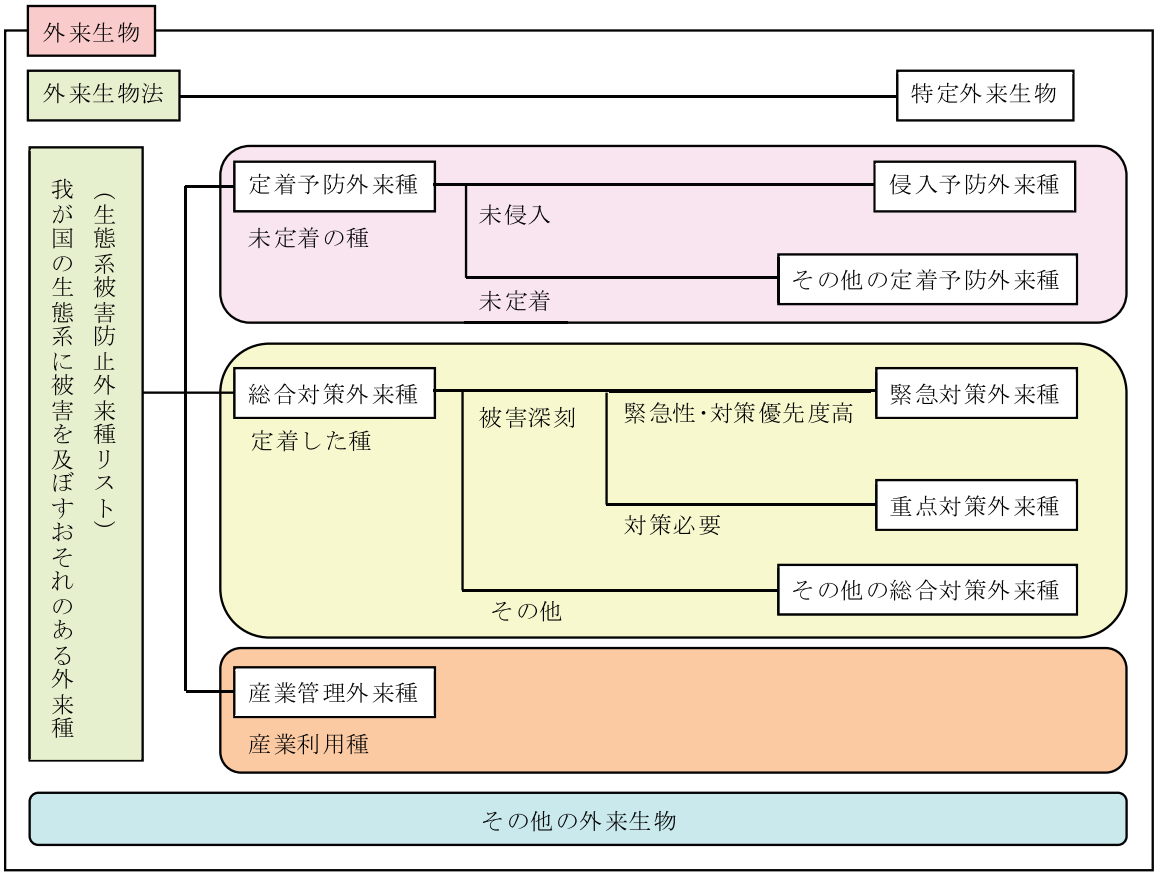
飼育、栽培、保管、運搬等の規制、輸入の禁止、野外に放つ・植える・蒔く事の禁止、譲渡・販売の禁止等が定められており、違反すると懲役や罰金が科せられる。

②　我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

（生態系被害防止外来種リスト）」（環境省、2015年３月26日公表）掲載種

③　日本鳥学会の「日本鳥類目録」における外来種

④　その他調査によって把握されている外来種



⑶　植生について

植物相：特定の限られた地域に分布、生育する植物の全種類のこと（九重町の植物相など）。

植　生：地表を覆う植物の漠然とした広がりを指し示すときに使う（海岸植生、高山植生、自然植生、代償植生など）。

群　落：生育地の環境や植物相の成り立ちの特徴など何らかの基準にしたがって類型化された単位（アラカシ群落、アカマツ群落、ノリウツギ群落など）。

群　集：群落に出現する植物種の組み合わせによって分類した単位で、植物社会学上の基準にしたがって区分され、認められた群落の固有名称（ジャノヒゲーアラカシ群集、シラキーブナ群集、ツルヨシ群集など）。

○○林：植物相のまとまりを相観的（外観的）に区分した簡易名称。相観上の違和感が少なく、日常会話的に使用可能。

（九重町の植生説明表）

主要な植生	区分	植生の内容	環境省植生図記載群落	群落の概要
アラカシ林	自然林あるいは二次林	暖温帯常緑広葉樹林域（北部九州では海抜900m以下）の森林植生で、大分県では河川沿いの岩崖や低丘陵地の代表的な常緑カシ林。	ジャノヒゲーアラカシ群集	大分県では河川中流域に発達し、河岸岩崖に張り付くように分布する自然林。アラカシのほぼ純林で、構成種は少ないが、大分県の郷土景観を代表する森林となっている。
			アラカシ群落	アラカシ林のうち、自然林特有の組成を持たない林分や、薪炭林として伐採・再生が繰り返された萌芽林に充てられた群落名。
ウラジロガシ林	自然林	暖温帯常緑広葉樹林域（北部九州では海抜900m以下）上部の代表的な森林植生で、山地の谷部に分布する常緑カシ林。大分県では主として津江や祖母・傾山系など南部の山系に発達している。	イスノキーウラジロガシ群集	ウラジロガシが優占あるいはシラカシ，イチイガシ等の常緑カシ類と混生し、多様な常緑広葉樹の構成種を含む林分。九重町では鳴子川渓谷の下部に残存林がみられる。
アカガシ林	自然林	暖温帯常緑広葉樹林域（北部九州では海抜900m以下）上部の代表的な森林植生で、山地の尾根部に分布する常緑カシ林。大分県では分布域が草原と重なることが多く、火山山系には発達した林分は少ない。	ミヤマシキミーアカガシ群集	ほぼアカガシの純林で、構成種は少ない。 北部九州では海抜400m付近から分布がみられるが、海抜1000m内外の山頂部にブナ林と接するように分布する林分が多い。九重町では平家山に比較的まとまった林分が分布していた。
ケヤキ渓谷林	自然林	山地の湿潤な渓谷に特徴的に分布する森林植生で、ケヤキが優占する夏緑広葉樹林。下流側ではカシ林やムクノキ・エノキ河畔林に、上流側ではブナ林やシオジ・サワグルミ渓谷林に移行する。高木にはカエデ類，カツラ，アサガラなど多様な種が混生し、下層植物が発達した種多様性の高い森林。	イロハモミジーケヤキ群集	ケヤキが優占する渓谷林のうち、常緑広葉樹林域上部のカシ林域にみられる林分。イロハモミジ，ミズキ等が混生し、下層の構成種には常緑広葉樹が多い。
			ヒメウワバミソウーケヤキ群集	ケヤキが優占する渓谷林のうち、夏緑広葉樹林域下部にみられる林分。イタヤカエデ，カツラ等が混生し、林床には多くの渓谷性の草本や低木類が繁茂する。
モミ・ツガ林	自然林	カシ林域とその上部の冷温帯林域の中間帯（中間温帯）に遺存的に分布する針葉樹林。両植生帯の森林にモミやツガが混生する混生林の相観を呈する。大分県では祖母・傾山系に発達した林分がみられ、火山山地には少ない。	シキミーモミ群集	モミが優占する広葉樹混生林。構成種にはカシ林やブナ林の様々な種が混生するが、ハイノキ，シキミ，カヤ，イヌガヤ等が特徴的にみられる。
			ハイノキーツガ群集	モミ・ツガ林のうち、尾根部乾生地や岩峰などにみられるツガの優占林分。

主要な植生	区分	植生の内容	環境省植生図記載群落	群落の概要
ミズナラ林	自然林	冷温帯夏緑広葉樹林域（北部九州では海抜900m以上）の代表的な森林植生で、九州では火山山地に発達している。	リョウブ－ミズナラ群落	ほぼミズナラの純林で、くじゅう火山群の主要な高木林。構成種は少なく、リョウブの混生が多い。
ブナ林	自然林	冷温帯夏緑広葉樹林域（北部九州では海抜900m以上）の代表的な森林植生で、ブナが優占する夏緑広葉樹林。九州では海抜1200m以上の脊梁山地山頂部に発達している。	シラキ－ブナ群集	太平洋側のブナ林に充てられた群落名で、南限域の林分。構成種は少なく、林床にはスズタケやミヤコザサ等の笹類が密生していることが多い。くじゅう火山群では発達した林分は少なく、ミズナラとの混生林やミズナラ林の中にパッチ状に分布する小林分がほとんどである。
岩角地・ 風衝地低木群落	山頂植生	山頂や岩峰地など極端にやせた土壌や強い風衝・乾燥といった特殊な環境に適応した土地極相的な自然植生。本来の気候的な自然植生とは異なる特徴的な低木林や自然草原が形成される。	岩角地・風衝地低木群落	くじゅう火山群では、ベニドウダン，ツクシドウダン，ホツツジ等のツツジ科落葉低木類が混生する林分が主体である。
ミヤマキリシマ 風衝低木林			マイヅルソウ－ミヤマキリシマ群集 ミヤマキリシマ－ススキ群落	九州の火山植生を代表する山頂植生で、ミヤマキリシマが優占する。その他コケモモ，イワカガミ，フクオウソウ，マイヅルソウ，ミヤマビャクシン等、一部高山性の種を含む高山ハイデ的な群落。九重町内の山域では広範に発達した植分は少なく、各山頂部の風衝草原内や岩場，登山道沿いの土手などに散在している。
風衝ササ草原 風衝草原			ササ群落、火山荒原植生	最も風衝の強い稜線部や岩屑地に形成される自然草原。ウンゼンザサ等の背の低いササ草原が風衝尾根部に広く分布するほか、岩屑地にはクジュウノガリヤス，カリヤスモドキ，コメススキ等寒冷地のイネ科草本による荒原が分布している。ただし、後者は近年減少しつつある。
アカマツ林	二次林	地域本来の自然林が破壊を受けたり、人為的に継続利用されることによって、本来とは異なる性質の植生や遷移段階の前段階の植生に退行したり、再生を繰り返されて維持されている森林植生。	アカマツ群落	かつての主要な用材林で、乾燥した痩せ地では代償的な土地極相林ともなる。アカマツが優占し、安定した林分ではツツジ類や草原生の種等向陽地を好む種群によって構成される。ただし、近年は松枯れや管理放棄などによって、多くはその場所本来の自然林の構成種群が侵入・成長し、遷移過程が進みつつある。九重町ではかつての植林からの天然更新林が多い。
コナラ林			コナラ群落 クロモジ－コナラ群集	コナラが優占する落葉ナラ林。自然分布としては中間温帯の森林植生であるが、常緑広葉樹林域ではその代償植生とみなされる。大分県では主要な二次林で、広く分布しており、マツ林との混生林分も多い。九重町ではクヌギ植林が多く、まとまった林分は少ない。
シデ林			アカシデ－イヌシデ群落	シデ類が優占する夏緑広葉樹林で、ブナ林やミズナラ林の代償植生とみなされる。
夏緑広葉樹 混生先駆林	先駆林	森林が破壊されたり、草原が放置された後、森林の遷移過程で初期に形成される先駆的な森林植生。あるいは、火山山地の遷移初期に形成される自然林。	コミネカエデ－ナナカマド群集	ミズナラ林と山頂植生との間に形成されている夏緑広葉樹混生林。熔岩岩屑が累積する斜面に広くみられる。特定の優占種は見られず、樹高の低いナナカマド，コミネカエデ，マンサク，リョウブ等が混生する。
			ウリノキ－ミズキ群落	草原内の谷筋で野焼きを免れて存続してきた林分や、火山山麓の谷斜面縁部に形成されている夏緑広葉樹混生林。本群落は西九州の多良岳で記載されたもので、大分県ではミズキ，クマノミズキ，エゴノキ，アサガラ，アオハダ，コシアブラ等多様な種群の混生林が多くみられる。
ノリウツギ低木林	先駆林		ヤマカモジグサ－ノリウツギ群集	火山山地の山頂部斜面に形成されている自然性の先駆低木林で、ノリウツギが優占する。林床にはヤマカモジグサ，シラネワラビ，笹類などが密生するほか、山頂植生の構成種なども混生する。浸食谷の岩屑地ではベニバナニシキウツギの優占林もみられる。
			ノリウツギ群落	くじゅう火山群では、主として放置草原や火山山腹で樹林化の進行に伴い、最初に形成される低木林。初期には元植生の草原植物が混生するが、林分の成長や遷移の進行と共に構成種は推移していく。九重町では植林された林分も含まれる。
アセビ林	先駆林		適応群集名なし	本来は非火山山地の山頂植生として記載されたが、くじゅう火山群では放牧草原の跡地で、食べ残されたアセビが生長して形成された低木林。ほぼアセビの純林で、林内は極端に貧下している。

主要な植生	区分	植生の内容	環境省植生図記載群落	群落の概要
ヨシ・ヌマガヤ湿原林	自然草原（湿原）	水湿地に形成された特殊な自然草原。国内では最も自然性が高い植生群のひとつで、発達した湿原では種多様性も高いが、環境の変化や人為圧に弱い脆弱な植生。	ヌマガヤオーダー	ヌマガヤに代表される中間湿原の上位植生区分。中層ミズゴケ湿原や多様な湿生草本が生育する山地の湿原植生が含まれる。九重町ではタデ原が代表的な場所。
			ヨシクラス	ヨシに代表される水生・湿生植生の最上位単位であるが、ここではミズゴケが発達しない低層湿原に相当する。ヨシが優占する湿原で、ヒメシロネ，ミズオトギリ，タデ類，スゲ類などを伴う。
ツルヨシ群落	自然草原（河川）	河川中流～上流に形成される流水域の代表的な河辺植生。	ツルヨシ群集	ツルヨシのほぼ純群落。流水による変動が激しい河床に生育可能な数少ない自然植生の一つ。
ススキ・ネザサ草原	半自然草原	森林が発達せず、稲作や畑作に不向きであった火山裾野の高原地帯に歴史的に存続してきた牧畜原野。野焼き，採草，放牧などにより永らく維持され、アジア大陸との繋がりを示す遺存種群の生育環境や景観要素として重要な役割を担ってきた植生。かつては国内各所に存在したが、現在まとまった面積で残存しているのは九州中部のみ。	ススキ群団	ススキが優占する半自然草原。くじゅう火山群にはかつて広大な面積で広がっていた。背の高いススキが密生する高径植分から、トダシバが混生して種多様性の高い植分、利用頻度が高くワラビが優占する植分や半裸地化した植分、湿原構成種を含む湿生植分など、立地環境や利用形態に応じた様々な群落がみられる。
			ネザサースキ群集	ススキ草原のうち、ネザサが優占する植分。西日本の草原に特有の群落で、世界的にも稀とされる草原形態を呈する。
クヌギ植林	人工林	人為的に植栽され育林されている森林で、ほとんどが伐採利用を目的とした戦後の拡大造林に伴う経済林。ただし、くじゅう火山群では崩落防止や水源涵養などの目的で昔から植林が行われてきた。また、昭和40年代以降草原の利用停止に伴い植林された林分も多い。	クヌギ植林	薪炭あるいは椎茸栽培を目的としたクヌキの植林地。九重町では植林の歴史は古く、利用されなくなった草原への植林も多い。
スギ・ヒノキ植林			スギ・ヒノキ・サワラ植林	スギやヒノキの針葉樹植林地。多くは戦後の拡大造林による林分である。また、草原からの転換も多い。
アカマツ植林、アイクロマツ植林			アカマツ植林	アカマツ，アイクロマツの植林地。くじゅう火山群の山麓には古くから治山のために植林された林分が多く、中には二次林との区分が難しい林分もみられる。
カラマツ植林			カラマツ植林	九州には自生しないカラマツの植林地。くじゅう火山群の高海抜地に治山のため導入されたが、多くは風衝地のため生育はよくない。
人工牧草地	人工草地	耕耘・播種によって人工的に造成された草地。農業形態の変化により、在来の原野から転換された場所がほとんどである。	牧草地	カモガヤ，ライグラス類，シラゲガヤ等の輸入牧草による人工的な草地。

2．九重町の自然に関することわざと言い伝え

聞き取り調査の結果、各地区で出されたことわざです。

自然に関することわざ・言い伝え	地区名
1 月 16 日山の神様の日は山に入らない、木は切らない	南山田など
5 月の丑の日に摘んだ薬草はよく効く	南山田
山菜をとってきたら、ナスと煮れ（ナスが毒を吸い取ってくれるので、ナスは食べないように）	南山田
サトイモは、田植え歌を聞かにゃ芽を出さん	野上など
生しのぶ（シノブダケ）を食べると、かさ（顔のできもの）ができる	飯田
マタタビの葉が白い年は、日年（日よりがよい年）	南山田
カエルが鳴くと、雨が降る	南山田
梅は半夏（7 月 2 日、3 日頃）をすぎてからとる	飯田
ニイニイゼミが鳴いたら、梅雨明け	野上
ヒグラシが鳴いたら、梅雨明け	飯田
ハチが高いところに巣をつくれば、台風がくる	野上
カマキリが巣を低いところにつくったら、雪が少ない	野上
盆前後は、草刈りをしない（帰ってくる先祖の足を切る）	東飯田
お盆をすぎて川で泳ぐと、河童に引っぱられる	南山田
ツクツクボウシが鳴いたら、秋になる	野上
秋の夕焼け鎌を砥げ（晴れになるということ）	南山田など
生グリを食べると、かさ（顔のできもの）ができる	飯田
小倉岳の山頂で、藁（わら）を焼いて、雨乞いをする	南山田
みそっちゅ（ミソサザイ）が鳴いたら、寒くなる	南山田
タカが昼前に鳴くと天気、午後に鳴くと隣通いできんくらい雨になる	南山田
ねばい液の出るものは食うな、他はなまかた（だいたい）食べられる	南山田
雨こうず（フクロウ）に日コウズ（晩にフクロウが鳴くと雨、朝鳴くと晴れ）	野上
雨がっぽう（カッコウ）に日こうず（フクロウ）（カッコウが鳴くと雨、フクロウが鳴くと晴れ）	野上
クイナが戸をたたく（戸をたたくようにキョンキョン鳴くことから）	飯田
ヨタカが家の中を飛びぬけると、すごくいいことがある	飯田
仲が良いのはオシドリ夫婦、仲が悪いのはヤマドリ夫婦	飯田
子供が長泣きすると、「こうず（フクロウ）やきねずぅ（化け物）がくるぞ」と言って泣き止ます	野上
やわたろう（アオダイショウ）が出ると、雨がふる	南山田
玄関に魔除けとして、さいわいだけ（マンネンダケ）を釘でさす	野上
桃栗 3 年、梨柿 8 年	東飯田
井戸をふさぐと、水神様に悪い（井戸に少しは空気が入るように隙間を開けている）	野上

3． 九重町の観天望気

観天望気とは、自然現象や生きものの行動の様子などから、天気を予測するものです。

山名	観天望気	地区名
硫黄山	硫黄山の煙がまっすぐならお天気／ 硫黄山の煙が前に流れると、天気が悪くなる	野上
		南山田
		飯田
涌蓋山	涌蓋山に雲がかかったら、雨が降る	野上
		南山田
		飯田
	涌蓋山の雪が消えたら暖かくなる	南山田
万年山	万年山に雲がかかっていたら、雨が降る／ 万年山の上に雲が上がっていたら、晴れになる	東飯田
	万年山の上から滝のごとく水が流れるとき、（滝が）２本までなら大水にならない	南山田
	万年山のほうに来た夕立ちは粟野に来ん	
伐株山	伐株山のほうに来た夕立ちは粟野に来る	南山田
平家山	平家山に雲がかかったら、雨が降る。雲が上がっていたら、晴れになる	南山田
横山	横山に霧がかかると雨が降る。霧があがると、晴れになる	野上
その他	東風が吹くと、雨が降る	南山田
		東飯田
		飯田
	西陣が曇ると、雨になる	南山田
	南から北に雲が流れると、雨になる	南山田
	東南に雲がいくと、天気になる	野上
	宝八幡宮の前から風が吹きこむと、雨が降る	東飯田

地蔵原から見た涌蓋山▶

4． 九重町の自然暦

聞き取り調査の結果、各地区で出された自然暦です。

種名	農事など	地区名
コブシ	コブシの花が咲いたら苗代をする	南山田
		飯田
	コブシの花が咲いたら芋を植える	野上
		南山田
		飯田
	コブシの花が満開になったら、ナバの盛り	野上
		南山田
モモ	モモの花が満開になったら、スイカの種やカボチャの種を植える	南山田
サクラ	サクラが咲いたら、春の農作物の種を植える（キュウリ、ダイコン、ハクサイ）	野上
クヌギ	クヌギの葉が出たら、ワラビが出る	東飯田
フジ	フジの花の盛りが、ゼンマイ取りにいい	野上
	フジが咲くころ、田植えの盛り	南山田
	十三曲にフジの花が咲き出すと、ゼンマイが良い頃	飯田
レンゲツツジ	レンゲツツジの花が下がる頃が田植えの盛り	飯田
ミヤマキリシマ	ミヤマキリシマの花が満開になったら、ゼンマイの一番いいころ	東飯田
ネムノキ	ネムノキの花が咲いたら、小豆を植える	野上
		南山田
		東飯田

コブシ▶

5．策定経過

－2015年（平成27年）－

１月21日　第１回九重町生物多様性保全対策協議会
２月26日　第２回九重町生物多様性保全対策協議会
３月30日　第３回九重町生物多様性保全対策協議会
５月28日　第４回九重町生物多様性保全対策協議会（総会）
７月27日　第１回九重町生物多様性保全対策協議会専門部会
10月19日　第５回九重町生物多様性保全対策協議会
12月７日　聞き取り調査（平成28年３月24日まで実施）

－2016年（平成28年）－

１月26日　第２回九重町生物多様性保全対策協議会専門部会
２月22日　ワークショップ（寿大学東飯田学習会）
３月４日　第６回九重町生物多様性保全対策協議会
３月９日　第３回九重町生物多様性保全対策協議会専門部会
４月28日　第７回九重町生物多様性保全対策協議会（総会）
６月２日　ワークショップ（九重町地球温暖化対策委員会）
６月13日　ワークショップ（九重町議会）
６月23日　ワークショップ（子育て世代・有機農業に取り組む方）
７月12日　第８回九重町生物多様性保全対策協議会
７月20日　ワークショップ（町民が考える九重町町づくり会議）
７月27日　ワークショップ（九重町食生活改善推進協議会）
９月２日　第９回九重町生物多様性保全対策協議会
９月23日　第４回九重町生物多様性保全対策協議会専門部会
10月18日　「寿大学」における学習会
11月２日　第10回九重町生物多様性保全対策協議会／第１回関係課会議
11月14日　ワークショップ（九重町食生活改善推進協議会）
12月１日　第11回九重町生物多様性保全対策協議会
12月15日　九重町社会教育委員会における説明
12月18日　生物多様性シンポジウム（主催　九重町・一般財団法人自治総合センター）

－2017年（平成29年）－

２月 ９日	第２回関係課会議
２月14日	第12回九重町生物多様性保全対策協議会
	第５回九重町生物多様性保全対策協議会専門部会
２月16日	議会説明
２月17日	パブリックコメントの実施（３月18日まで）
３月22日	第13回九重町生物多様性保全対策協議会
	第６回九重町生物多様性保全対策協議会専門部会

※随時、事務局協議を実施

生物多様性シンポジウム

(2016年12月18日　九重文化センター)

住民が生物多様性について知り、考えるきっかけにするとともに、九重町の自然の良さや問題点を提起しつつ、生物多様性に寄り添った教育やまちづくりについて、存分に語り合う機会とするため開催しました。前半は野口理佐子さん（アファンの森財団事務局長）の講演、後半は町内で農業や環境教育などに取り組む方によるパネルディスカッションを実施しました。
そのときに採択された大会宣言文は121ページに掲載しています。

6． 九重町生物多様性保全対策協議会員名簿

本戦略策定にあたり、聞き取り調査や戦略内容審議などを、下記の会員が中心となって実施してきました。

団体名		氏名	備考
地域住民	飯田地区代表	時松　和弘	会長
	東飯田地区代表	小野　礼子	
	南山田地区代表	矢野　陽一	
	野上地区代表	佐藤進太郎	
各種団体	九重の自然を守る会	渡辺　格雄	
	くじゅうネイチャーガイドクラブ	増田　啓次	
	九重ふるさと自然学校	川野　智美	副会長
	くじゅう地区管理運営協議会	種村　英大	
行政	九重町商工観光・自然環境課	左藤　克樹	2014年度まで
		麻生　通教	2015年度から
	九重町農林課	麻生　通教	2014年度まで
		武石　啓治	2015年度まで
	九重町社会教育課	小山　正記	2015年度から
		日野　優一	2016年度まで
	九重町教育振興課	佐藤　眞治	2015年度から
		原田　勝美	2016年度から
	九重町建設課	菅家　常典	2015年度から
アドバイザー	NPO 法人 おおいた生物多様性保全センター	足立　高行	
	大分大学 教育学部	永野　昌博	
	環境省くじゅう自然保護官事務所	新田　一仁	2014年度まで
		中村　　仁	2015年度から
	大分県生活環境企画課	山本　章子	2015年度まで
	大分県自然保護推進室	山﨑　吉明	2016年度から

事務局（商工観光・自然環境課）

課長　　左藤　克樹（2014年度まで）／ 麻生　通教（2015年度から）

リーダー　工藤　和典（2015年度まで）／ 竹尾　孝一（2016年度から）

担当　　日隈　慶子、衞藤　莉恵（2016年度から）

7．九重町生物多様性保全対策協議会　専門部会員名簿

本戦略策定にあたり、専門的分野における助言や資料提供を、下記会員が中心となって実施してきました。

専門	所属	氏名
哺乳類・爬虫類 両生類・植生	NPO法人 おおいた生物多様性保全センター	足立　高行
		桑原　佳子
		森田　祐介
鳥類	日本イヌワシ研究会	時松　和弘
	大分地域と鳥の会	中村　　茂
	九重ふるさと自然学校	阿部　秀幸
植物	九重の自然を守る会	渡辺　格雄
	九重町文化財調査員	佐藤三千代
	九重ふるさと自然学校	川野　智美
	くじゅう地区管理運営協議会	村松　優子
昆虫	大分昆虫同好会	三宅　　武
	九重ふるさと自然学校	朝倉　和紀
人文	くじゅう地区管理運営協議会	種村　英大
魚類	大分マリーンパレス水族館「うみたまご」	星野　和夫

〈聞き取り調査にご協力いただいた皆様〉　＊順不同、敬称略

馬場　久子、鷲頭　ミサヲ、大隈　公武、石﨑　忠男、武田　マキヱ、時松　サツキ、
有吉　千代喜、小野　喜美夫、森　欲、武石　ヒサ、甲斐　ミキ、伊東　須美男、
赤峰　和則、赤峰　宗子、後藤　三四一、佐藤　惣三郎、梅木　豊彦、中野　一子、
小野　ヤス子、麻生　盛高、小野　恒喜、麻生　憲一、佐藤　憲子、井上　冨美、
佐藤　峯子、梅木　芙佐子、竹野　次男、日隈　邦弘、古後　信彦、飯田　英吉、
藤澤　美保、後藤　信子、後藤　晴一、川野　イヱ、佐藤　秀信、井川　辰雄、
須藤　ヤヱ子、須藤　シズ子、工藤　勝美、佐藤　文子、帆足　顯弐、帆足　須磨子、
日野　爾郎、梅木　睦子、橋爪　文子、松本　スズヱ、井上　睦子、今永　浅樹、
玉井　和喜、甲斐　素純、梅野　紀久子、原田　榮子、島　節子、小野　美惠子、
原　泰三、小野　文男、山下　政美、小幡　寅之助、竹ノ井　雪子、髙橋　喜八郎、
武石　平八郎、工藤　治良、佐藤　憲基、佐藤　郁男

※聞き取り調査については、35ページに記載しています。

〈写真・情報提供〉　＊順不同、敬称略

大分昆虫同好会、衛藤　民子（日本野鳥の会大分県支部）、小角　浩、飯沼　賢司（別府大学）、
大澤　剛士（（研）農研機構農業環境変動研究センター）、大塚　正雄（宇佐自然と親しむ会）、
竹野　孝一郎（九重町文化財専門員）、九重ふるさと自然学校、くじゅう地区管理運営協議会、
九重町生物多様性保全対策協議会、九重町生物多様性保全対策協議会専門部会、
ワークショップなどにご協力いただいた皆様

ご協力　誠にありがとうございました